

6 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

(1) 研修の実施状況

職員の勤務能率の発揮及び増進のため、職層や経験年数に応じて行う指名研修や、個々の職員が習得したい知識及び技能を受講希望する選択型の研修のほか、専門研修、職場研修、派遣研修等、各種研修を実施しています。

平成19年度の主な研修の実施状況は、次のとおりです。

ア 一般行政職等

研修区分	受講者数(人)								
	研修名	知事部局	企業局	病院局	教育	警察本部	その他	合計	
指名研修	新採用職員	197	0	15	42	0(13)	0	254(13)	()は県警察学校での研修
	係員	792	0	108	143	46(32)	13	1,102(32)	()は管区警察学校での研修
	監督者	61	0	3	11	0(10)	0	75(10)	()は警察大学校での研修
	管理者	153	2	1	9	0	3	168	
	管理者特別研修	56	0	2	6	0	1	65	
	計	1,259	2	129	211	46(55)	17	1,664(55)	
個別選択研修	基礎能力・業務遂行能力開発	42	0	1	8	5(91)	3	59(91)	()は警察大学校、管区警察学校及び県警察学校での研修(研修区分 専科)
	政策形成能力開発	70	2	3	0	5	0	80	
	協働・対人能力開発	46	1	1	2	4	0	54	
	マネジメント能力養成	44	1	2	4	3	2	56	
	指導者養成	22	0	2	3	0	0	27	
	行政経営セミナー	86	1	4	7	17	5	120	
	中国語講座	8	0	0	0	0	1	9	
	計	318	5	13	24	34(91)	11	405(91)	
派遣研修	30	0	0	1	3	0	34		
合計	1,607	7	142	236	83(146)	28	2,103(146)	()は外数	

イ 教育職

研修区分	概要		受講者数(人)
	研修名		
基本研修	初任者研修	新任教員を対象として、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させるなど、教員としての基礎、基本の習得を図る。	162
	経験者研修	教職経験5年の教員を対象にして、学習指導法など専門的な力量の向上を図る。	173
	経験者研修	教職経験10年という節目において、今までの教育活動を振り返り、自己の課題や適性等を再確認し、実践的指導力の向上を図る。	283

ウ 公安職

	研修区分	概要	受講者数(人)
	研修名		
採用時 教養	初任科・初任補修科	新たに採用された警察官を対象に、職責の自覚と使命感を培わせ、地域警察活動に必要な基礎的知識・技能の修得及び体力・気力の錬成を図る。	300
任用科	県警察学校	警部、警部補、巡査部長に昇任、又は昇任が予定されている警察官に対し、知識・技能の補完を図る教養。 各部門に新たに任用する警察官に対し、職責の自覚と専務員としての基礎的知識・技能の修得を図る。	112
	管区警察学校		172
	警察大学校		24
専科	県警察学校	特定の分野に関する専門的知識・技能の修得を図る。	573
	管区警察学校		63
	警察大学校		94

(2) 勤務成績の評定の状況

ア 知事部局等

勤務の評定の目的	勤務評定は、法第40条の規定に基づき、職員的能力開発・人材育成、適材適所の人事配置等に必要なる人事管理上の資料の整備を図ることを目的としています。
対象職員	勤務評定は、次に掲げる職員以外のすべての職員を対象としています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 非常勤又は臨時的任用職員 ・ 教育職、医療職(一)、技能労務職給料表の適用を受ける職員 ・ 給料の特別調整額を受ける管理職員
評定者等	評定者は直近上位の管理職とし、最終評定者を所属長としています。また、実施責任者を各部局長等としています。 実施責任者は評定結果を厳正に審査し、不相当と認めるときは所要の訂正を命じることができることとしています。
基準日及び期間	平成19年8月1日を基準日として前1年間について作成しました。 ただし、転任、配置転換等の日から3月に満たない職員や長期の休職、研修等により基準日前3月以上にわたって業務に従事しなかった職員などについては、3月を満了するまで延期して実施することとしています。
評定結果の活用	評定結果については、職員的能力開発・人材育成及び適材適所の人事配置の基礎資料として活用しました。

イ 教育委員会(県立学校・市町村立学校)

勤務の評定の目的	勤務評定は、職員の適正配置等、公正な人事管理の基礎資料の一つとするものです。
対象職員	勤務評定は、次に掲げる職員以外のすべての県立学校の教員、市町村立学校の教職員を対象としています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月以内の期間を定めて任用される職員 ・ 非常勤 ・ 指導主事に充てられた教員等
評定者等	評定者は、校長については教育長(市町村立学校の場合は市町村教育委員会教育長)とし、校長以外については当該職員の所属する学校の校長としています。
基準日及び期間	原則として平成19年9月1日を基準日として前1年間について評定しました。
評定結果の活用	評定結果については、人事配置に活用しました。

ウ 警察本部

勤務の評価の目的	勤務評価は、法第40条の規定に基づき、職員が職務と責任を遂行した勤務実績、能力及び適性を統一的に評価し、これを職員の処遇、計画的な人材育成、適材適所の人事配置等に活用し、併せて、公務能率の向上に資するために行っています。
対象職員	勤務評価は、次に掲げる職員以外のすべての職員を対象としています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方警務官 ・ 非常勤又は臨時的任用職員
評価者等	評価は、原則として、被評価者の複数の上司により行い、調整は、評価者の上位の職にある者が行うものとしています。
基準日及び期間	評価期間は、前年の4月1日から3月31日までの期間とし、3月31日現在で実施しました。また、平成20年からは、1月1日から12月31日までの期間とし、12月31日現在で実施することとしました。
評価結果の活用	評価の結果は、人材育成、人事配置等に活用しました。